

要 旨

宇部市は山口県第 3 位の人口を有する都市である。製造品出荷額・小売販売額は共に県内第 3 位で、県内他市と比較して製造業と商業のバランスが良い。宇部市を含む宇部地域は、交通インフラや教育インフラが充実していることを強みとする。

宇部地域は、石炭産業によって明治期以降急速に発展した。大正期以降、宇部興産(株)の前身である石炭会社が機械・セメント・化学といった石炭産業と関連する工業分野に進出したことを契機として、宇部地域は工業都市へと変容していった。戦後、宇部地域はコンビナート中心の工業都市としての姿を確立させて、石炭産業斜陽化にもかかわらず発展を続けた。その後、オイルショック等による停滞、テクノポリス認定に基づく企業進出、隣接する厚狭郡楠町合併などの動きが見られたものの、コンビナートを中心とした宇部地域の産業構造は現在に至るまで大きく変わってはいない。

宇部市の製造品出荷額構成比の推移を見ると、市町村合併に伴う統計上の変化を除外すればその構成比は大きく変化しておらず、コンビナート中心の産業構造が長期的に変わっていないことがわかる。主要産業の動向を総合すると、製造業活性化を通じた地域活性化のためには、地域製造業の土台となっている機械製造・金属加工に従事する中小製造業の競争力向上が特に期待される。

調査にあたり実施したインタビューからは、大手・中堅製造業は独自に競争力を確保し中長期的な戦略を策定できている一方、中小製造業はいくつかの構造的要因によってそれほどの業況回復を見ず中長期的な戦略構築も進んでいない状況が観察された。

以上を総合し、本稿では MOT 研修プログラムの開催 地域企業クラスターの設立 進出企業に対するアフターフォローの重視という三つの提言を行った。これらの提言は、地域の人々が主体的に取り組むことを要請する点に特徴がある。地域の活性化は、他の誰かではなく自分たちの手によって挑戦されることが望ましく、今回の提言等をベースに地域内部において議論や取組が行われることを期待したい。

以 上

(執筆担当:中国支店企画調査課 村尾 洵一(jumurao@dbj.go.jp))